

日本労働年鑑 1951年版(第23集)

The Labour Year Book of Japan 1951

第二部 労働運動

第二編 労働組合運動

第七章 主要な労働組合の現状

全通信労働組合

全通信労働組合(全通)

(All-Japan Communications Workers Unions)

◇結成 一九四六年五月三十一日

◇所在地 東京都港区芝新橋七ノ一二産別会館

◇加盟機関 産別 全労連 全官公庁

◇組織(労働省調)

	支部、分会数	組合員数
北海道地区本部	一九三	二五、三九八
(東北地方連絡協議会)	一六〇	三八、二一二)
青森地区本部	二八	四、八二二
岩手地区本部	二五	五、〇八〇
宮城地区本部	三五	一〇、三九六
秋田地区本部	二二	四、六九四
山形地区本部	二三	五、八一九
福島地区本部	二七	七、四〇一
(関東地方連絡協議会)	三六七	八一、九八〇)
茨城地区本部	四〇	五、六六二
栃木地区本部	三〇	四、八五五
埼玉地区本部	二八	五、三一—
群馬地区本部	二七	四、六〇三
千葉地区本部	三三	五、七四一
東京地区本部	一四三	四三、八二三
神奈川地区本部	四八	八、五九一
山梨地区本部	一八	三、三九四
(北陸地方連絡協議会)	七四	一三、二一九)
富山地区本部	二四	三、六七〇
石川地区本部	二九	五、九九五
福井地区本部	二一	三、五五四
(東海地方連絡協議会)	一二〇	三九、一二七)
岐阜地区本部	二七	六、五六九
静岡地区本部	二九	八、七三八
愛知地区本部	四四	一七、六八一
三重地区本部	二〇	六、一三九
(信越地方連絡協議会)	九二	一九、〇九五)
新潟地区本部	四二	三、九九一
長野地区本部	五〇	一〇、一〇四
(近畿地方連絡協議会)	二一八	六〇、二二九)
滋賀地区本部	八	三、四二一
京都地区本部	二八	九、一七三
西舟地区本部	一七	二、七六五
大阪地区本部	七三	二三、四八五
兵庫地区本部	五七	一三、九四〇
奈良地区本部	一七	三、一五七
和歌山地区本部	二三	四、二八八
(中国地方連絡協議会)	一二二	三三、五八六)
鳥取地区本部	一七	二、八四九

島根地区本部	二七	四、四七四
岡山地区本部	一六	六、三二一
広島地区本部	三七	一四、四六〇
山口地区本部	二五	七、四七六
(四国地方連絡協議会)	五四	一七、七九七)
徳島地区本部	九	四、〇二八
香川地区本部	一七	四、〇三八
愛媛地区本部	一七	六、〇九二
高知地区本部	一一	三、六三九
(九州地方連絡協議会)	二三〇	五一、二一一)
福岡地区本部	六一	一六、九〇二
佐賀地区本部	一〇	三、四四〇
長崎地区本部	四六	七、五四四
大分地区本部	三三	五、五〇〇
熊本地区本部	三五	一〇、四五二
宮崎地区本部	一六	三、六八三
鹿児島地区本部	二九	五、七九〇
総計	一、六三〇	三八一、九三九

[備考]但し右の数字は全通労組と全通従組に分裂以前のものである。

◇役員

中央執行委員長 山口寛治
副中央執行委員長 高原晋一
同 村山永喜
書記長 浜 武司

◇機関紙「全通新聞」B3二ページ五日刊

◇運動方針(要旨)

1 われわれはこんなに困っている

借金はふえる、職場はつぎつぎに首は切られる、官側は急にいばり出した、人は足りないし機械は故障だらけで加入者から苦情が出る、超過勤務はやっても手当はくれない、このままでは年も越せない。

2 これは一体なぜだろう

(一)なぜこのような無茶なことをやるのか、それは働く者が目ざめ、新中国のような国がたくさん出て来たので大金持がぐらぐらして来た。そこでデマ、首切りで弾圧しそれでも間に合わなくなって世界的な分裂策動を始めているのだ。

(二)売国奴吉田は外国資本と結託して大金持だけを助けるために今年中に三千億円の金を働く者からしぼり上げようとしているのも、この世界的な弾圧の一環として行われているのである。

3 われわれの要求をどうして取るか

(一)「働いたら切るぞ」の官側のおどかしにふるえている、職場の主人公であるわれわれはこれで国民の通信が守れるか、苦労している家族のことも考えて元気を出そう。

(二)百獣の王ライオンでもアリの大群にはかなわない。吉田やそれにつながる悪質官僚などわれわれが団結さえすれば物の数ではない。

(三)団結のために選ばれた幹部は

- イ 敵に対しては不屈、組合員に対しては愛情をもって献身する
- ロ 「指導する」とか「してやる」とか「やらせる」とか闘争の請負主義を克服する。
- ハ 組合をふみ台にする一さいの利己心は心中の敵である。

4 闘いの進め方

- 1 日常闘争を強化しよう
- 2 宣伝

3 文化闘争

4 不正摘発

逋信省の予算の三分の一は官僚の宴会費に使われている。わずかのおこぼれにたられて、もっとも大きな利益をのがさぬように小さな不正でもみんなに知らせてその力で摘発しよう。

5 失業反対闘争

申訳的な救援対策、首を切られた一部の者の闘争であってはならない。〃人よこせ闘争〃と合せて国鉄、金属等あらゆる地域産業労働者と結びつき、市長、村長に対し「仕事よこせ」「生活を保護せよ」を要求する。

6 われわれの戦線を統一拡大しよう

7 最も闘いやすい組織にしなければならない、組合員が首を切られても同じ陣列で闘える組織にする、組合や規約はわれわれのものだ、これを人事院に認めさせ、闘う組合をつくる、組合費は活動の血液だ、指令、指示は事実に基づいて正確に報告する。

◇全逋労組は戦後の官業労組運動の中で戦闘的労組として一貫して来たが四八一九年度に於ても四八年の三月闘争、七月攻勢とその先頭にたつた。しかし四九年夏の行政整理反対闘争の結果、全逋再建同盟は分裂して別に全逋信従業員組合を結成した。全逋労組と全逋従組との組合員数は重複している支部、分会があつて明瞭でない。

日本労働年鑑 第23集／1951年版

発行 1951年1月1日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 時事通信社

2000年2月15日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1951年版(第23集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
